[各部局教育最前線]

地域の教育を支える拠点を目指して

ー令和の日本型教育の推進：「教える」から「学ぶ」へー

伊藤　信成（三重大学教育学部）

教育学部・教育学研究科は「教師」という職業に就く人材を育成する学部・研究科です．特定の職業を前提とする点，そしてその目的のために人文社会系から理数系，そして芸術・スポーツ系まで，多様な専門分野を持つ教員が集っているという点が，本学部の特徴と言えるでしょう．教育学部では幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援の 5 校種・27 教科の教員免許取得が出来ます．

さて，読者のみなさんは学校の授業と聞いて，どのような風景を思い浮かべるでしょうか．先生が黒板の前に立って，教科書の内容を説明して板書していく，生徒はそれを書き写していく，そのような授業風景を思い浮かべる方もいるかもしれません．しかし，現在教育の現場は急速な勢いで変化をしています．社会の在り方が劇的に変わり，現実空間とサイバー空間がシームレスにつながるようなSociety5.0時代や，新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な予測困難な時代の到来が予測されています．大人でさえ 10 年後の社会を見通すことが難しくなっていますが，子どもたちは，そのような予測が難しい社会を生きていくことになります．そのため子どもたちが，自分の良さや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるように育成していくことが必要となります．このような人材育成を目指した“令和の日本型教育”の推進が中央教育審議会から提唱されています．ICT の活用を柱とする GIGA スクール構想もその一環です．“令和の日本型教育”では，「個別最適な学び」と「協働的な学び」が 2 つの柱となっています．これらの推進においては，学校現場でも大きな意識変革が求められます．すなわち，これまでは「教える」場所だった学校が，子どもたちが自ら「学ぶ」場所に変わっていく必要があると言うことであり，必然的に教師の役割も変わってきます．教育学部・教育学研究科では，この社会の変化に対応できる教員養成を行うべく，カリキュラム等，不断の見直しを行っています．

また，教育現場ではいじめや不登校，特別な支援が必要な児童生徒への対応など，近年増加傾向にある教育課題への対応も必要になります．本学部では津市教育委員会と共同で三重大学・津市子ども教育センターを開設しました．地域で蓄積されたノウハウと大学の知見を融合し，地域貢献を推進して参ります．また，外国につながる児童生徒への対応や小規模校・複式学級への対応は，三重県特有の教育課題です．これらの課題に対応できる専門性を持った教員養成についても推進をしているところです．

さらに，このような取組みの実践の場として附属学校園があります．附属学校園では令和 5 年度に ICT 教室を開設しました．ここでは最新の ICT 機器を活用した授業実践が可能であり，附属の先生方が授業研究を行うとともに，授業公開や研修を通じて，成果の地域還元を行っています．

以上のような活動は地域との連携無しには成し得ません．教育学部は地域の教育を支える拠点となるべく活動を続けて参ります．ご支援・ご協力を賜れば幸いです．